

未来の富田林をあなたと描く市民会議“Mira-ton”

1. 100人規模の市民ワークショップ“Mira-ton”の誕生

【平成28年度】“Mira-ton”の初開催

富田林市では、平成29年度からの10年間を計画期間とする富田林市総合ビジョン（いわゆる総合計画）を策定するにあたり、幅広い市民の意識や、今後のまちづくりに向けた意向を把握するために、市民・学生・市職員が同じテーブルで「未来の富田林」を考える機会として、100人規模のワークショップ形式による「未来の富田林をあなたと描く市民会議“Mira-ton”」を開催しました。

この“Mira-ton”では、全4回でのべ225名の方が参加され、子育て・健康・産業・防災など市政の各分野をテーマにしたグループごとに、10年後のまちの将来像や新しい取組アイデアについて、参加者自身の視点で考案・発表を行いました。

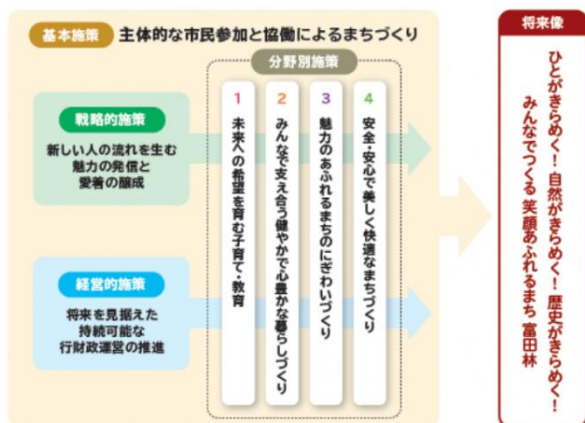
また、富田林市政策推進課においては、発表されたアイデアや議論の過程であげられた様々な意見を集約し、まちの将来像となるキャッチコピーをはじめ、総合ビジョンの策定につなげました。



【平成29年度】“Mira-ton 2017”の開催

平成29年3月に策定した総合ビジョンでは、「主体的な市民参加と協働によるまちづくり」を、すべての施策における基本的な考え方（基本施策）として位置付けたことから、策定した総合ビジョンの周知とあわせ、市民が主体的にまちづくりの担い手として活躍していくための意識醸成や人材育成を目的に、シリーズ2年目となる“Mira-ton 2017”を開催しました。

“Mira-ton 2017”は、全3回でのべ129名の市民・学生が参加され、総合ビジョンにおける分野別施策ごとのグループに分かれ、ファシリテーター役の市職員と一緒に、まちの資源と課題を組み合わせることで、地域の課題解決につながる取組アイデアを考案・発表するワークに取り組みました。また、新たな仕組みとして、周知も兼ねたグループワークにおける総合ビジョンの活用や、地域特性を出すため参加者の居住エリアごとに区分したグループ編成を取り入れました。



2. 進化した“Mira-ton 2018→19”

平成 30 年度では、引き続き総合ビジョンの基本施策の推進を目的に、かつ、これまでの“Mira-ton”からもうワンステップ進化するため、シリーズ3年目となる“Mira-ton 2018→19”を開催しました。

前回までは、参加者によるアイデアの考案・発表で留まっていたが、市民参加・協働の促進をさらに一歩進めるべく、“Mira-ton 2018→19”では参加者自らが取組アイデアを企画し、実践することをゴールとして開催しました。

そこで、まずは開催テーマを「富田林のええとこ・ええものの PR」と絞り込み、取組アイデアを生み出す【アイデア編】と、その実現に向けて作業を行う【実践編】の2部構成としました。また、考案・実践された取組を継続的に支援するため、富田林市市民公益活動支援センターと連携した事業企画・運営を行い、市職員によるファシリテーションのもと、ワークショップを進めました。

【アイデア編】では、全2回でのべ 70 名の市民・学生が参加され、富田林市の「ええとこ・ええもん」を PR する7つのアイデアが考案されたとともに、【実践編】では作成する PR 媒体ベースに4つのグループ(チラシ・SNS・カレンダー・動画)に再編し、地元農家さんへの取材や、Instagram のアカウント開設、市内ロケ地での動画撮影等に取り組むなど、グループ独自の自主活動も積極的に行いながら、発表&投票会に向け作業を進めています。

（“Mira-ton 2018→19”事業概要）

	回数	テーマ	募集対象者	のべ参加者数	実施結果
アイデア編	全2回	富田林のええとこ・ええもんをPRするアイデアの考案・企画	<ul style="list-style-type: none"> ・“Mira-ton 2017”参加者 ・市で無作為抽出した市民(1,500名) ・公募 ・市職員 	70人	市名産のえび芋や、石川サイクリングロードを中心とした地域の魅力発信など、計7つのPRアイデアが誕生
実践編	全3回	PR アイデアの実現に向けたグループ作業	アイデア編参加者	約60人（見込）	1月19日（土）に発表＆投票会

未来の富田林をあなたと描く市民会議
“Mira-ton 2018→19”

アイデア編 第2回

第2回開催概要

日時：2018年10月27日（土）14:00～16:30
 会場：富田林市きらめき創造館（Topic）2階
 参加者数：34名

「富田林のええとこ・ええもんのPR」をテーマに開催している“Mira-ton 2018→19”。第2回は、第1回で話し合われた「富田林のオススメや自慢」を、どうすればたくさんの方にPRできるか、PRアイデアの企画をどんどん具体化しました。

その後、グループごとにPRアイデアを発表し、どのアイデアが一番面白かったか、“富田林のええもん賞品”をかけて、投票会を実施しました。

アイデア企画の具体化

PR企画のベースとなる、「ターゲット」、「媒体」、「PRの目的」の決定！


PR実現のために、自分たちでできること、人にお願うことに分類し時系列で整理！

▲戦略会議で議論が白熱！

▲富田林のええもん“えいれいもココロック”をみんなで試食！

参加者全員で記念写真！
PRアイデア発表ページへ

グループごとのPRアイデアはこちら！！

<p>グループ1 次世代に繋ごう!!残そう!!地元の味</p> <p>若い人やファミリー層へ 回覧板・チラシ・地域のイベントを 使ってえび芋の味をPR!!</p>		<p>グループ5 イベント参加でハッピートッピー</p> <p>富田林市内の30代の方々へ チラシを使って 富田林のイベントをPR!!</p>	
<p>グループ2 銀輪でめぐるきらめきの石川</p> <p>富田林市外の30~40代の 子育て世代へ Facebookを使って 石川の自然の豊かさをPR!!</p>		<p>グループ6 子どもたちが富田林を 大好きになる交流!</p> <p>富田林市内の幼児・小学生・ 子育て世代へ 交流できる場を設けて 自然・公園などの景観のよさをPR!</p>	
<p>グループ3 知って!まわって!得する!寺内町</p> <p>富田林市内のお年寄りへ 回覧板・広報誌を使って 季節にあった(なべ・ひなめぐりなど) 寺内町の魅力をPR!!</p>		<p>グループ7 富田林ザ・ムービー 「かこ ton・今 ton・Miraton」</p> <p>富田林市外の20~30代男女へ 映画 (YouTube) を使って 歴史、まちなみ、自然、 あたたかい心をPR!!</p>	
<p>グループ4 Mira-Ton 20XX</p> <p>富田林市内の方々(住み・働き・学ぶ人)へ カレンダー(紙・ネット)を使って 程よい田舎と住みやすさをPR!!</p>		<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> <p>次回からは、 アイデアを実現する 【実践編】 が始まるよ!</p> </div>  </div>	

3. 市民・学生発の4つのPRアイデア

【アイデア編】を踏まえた【実践編】を進める中で、4つの媒体別グループから、それぞれ個性溢れるPRアイデアが生まれようとしています。

(4つのPRアイデア)

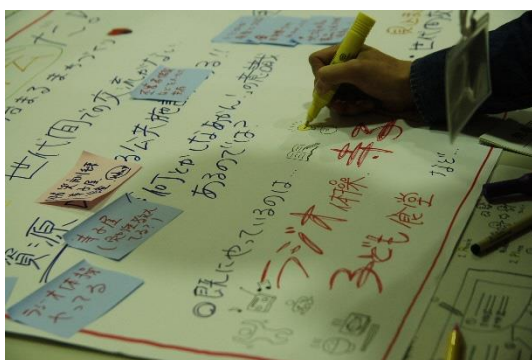
グループ	PR するもの	到達目標
チラシ	市名産のえび芋	えび芋の歴史や魅力を PR するチラシを作成・配布
SNS	石川サイクリングロードを中心とした地域の魅力	写真とハッシュタグを駆使してInstagram を始める
カレンダー	程よい田舎と住みやすさ	風景やイベント写真等をデザインしたオリジナルカレンダーの作成
動画	歴史・まちなみ・自然・あたたかい心	寺内町や石川を舞台にしたヒューマンドラマ風動画を作成し YouTube にアップ



4. 市職員がファシリテーション・グラフィックに挑戦

“Mira-ton”では、職員が市民・学生と同じテーブルでグループワークに取り組むことで、コミュニケーション能力やファシリテーションスキルを身に付けることを目的に、所属に関係なく有志の若手職員が参加しています。

特に“Mira-ton 2017”からは、事前研修を重ねながら、グループのまとめ役となるファシリテーターとして参加し、イラストや記号などを使って議論を可視化する「ファシリテーション・グラフィック」にも挑戦しています。もちろん、うまくいかない部分も多く、悪戦苦闘の連続でしたが、その都度反省会や情報共有を行い、時には参加者のみなさんにも助けられ、回を重ねるごとに信頼関係を築きながらグループワークを進めています。



5. 活用制度

平成 30 年度の“Mira-ton 2018→19”の実施にあたっては、事業の企画・運営委託料等の財源として、一般財団法人自治総合センターの宝くじ社会貢献広報事業のひとつである「コミュニティ助成事業」の内、「地域づくり助成事業」を活用しています。



6. 今後の課題・展開

今後の課題としては、「市民主体の活動の継続・展開」と「若い世代の参加」の2点があります。

まず1点目は、“Mira-ton”の事業終了後も、この場や出会いをきっかけとして、参加者のみなさんが地域活動に参加されたり、地域課題の解決に向けた新たな取組を始めるなど、市民の主体的な活動の継続・展開につなげることが重要であり、今後、市民公益活動支援センターと連携しながら、さらなる機運醸成や活動支援に努めていきたいと考えています。

また、2点目として、3年間通して多くの市民や学生のみなさんが参加されましたが、特に若い世代の参加率の低さが課題となっています。“Mira-ton”の開催にあたっては、土日の開催や託児ルームの併設など、働く世代・子育て世代も参加しやすい工夫を取り入れていますが、20代・30代の参加が圧倒的に少ないのが現状です。今後、次世代の地域活動やまちづくりにおける担い手の発掘・育成につなげるためには、若い世代の参加促進が課題となっています。

(参考)

富田林市ウェブサイト “Mira-ton”のページ

<https://www.city.tondabayashi.lg.jp/soshiki/4/9561.html>

<問い合わせ>

富田林市 市長公室 政策推進課 企画調整係

T E L : 0721-25-1000 (内線 515)

F A X : 0721-20-0200

M a i l : plan@city.tondabayashi.lg.jp

